

1. 木質バイオマス関連情報

■(株)青森銀行(青森)と(株)日本政策金融公庫札幌支店農林水産事業(北海道、以下「日本公庫」)が、(株)寅福プラント(青森)が青森県むつ市で実施する大規模温室トマト栽培事業を連携して支援すると発表。同社は北海道で野菜を生産する(株)寅福の関連会社として設立された法人。むつ市に建設中の大規模温室トマト工場では、地元産の木質バイオマス資源を燃料とした温水を工場内の温度管理に活用し、燃焼時の排ガスもトマトの育成促進に利用するなど、「カーボンニュートラル」をより一層進めた「カーボンマイナス」の実現に取り組む。むつ市では地域雇用の受け皿となっていたメーカーの工場閉鎖によって数百人の雇用の場が喪失することとなり、新たな雇用創出の機会として同社と企業立地協定を締結。むつ市と青森銀行、日本公庫は連携して同社を支援することとなった。新工場では約100名雇用し、トマトを約1,500t/年生産する予定。事業費は約33億円、2024年施設稼働予定【(株)日本政策金融公庫：2023/08/18】

https://www.jfc.go.jp/n/collabo/pdf/J726-N_tohoku_20230915_20230818.pdf

■群馬県川場村、11月開庁を目指して建設を進める役場新庁舎と周辺施設で木質チップを燃料とするバイオマスボイラと太陽光パネルを設置へ。現在の役場庁舎は老朽化が著しく、耐震基準も満たしていないため、新たに災害時の対策本部機能を備えた災害支援拠点施設となるよう庁舎の移転・整備を進めている。新しい役場庁舎の周辺には、「交流ホール」、「むらの学習館」等の施設の他、木質バイオマスによる熱利用と太陽光発電の設備を集約した「エネルギーセンター」も建設。村は、「令和4年度補正二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金・川場村新拠点(役場庁舎等)における木質バイオマス熱利用設備・太陽光発電設備導入事業」の工事名で5月18日～26日まで一般競争入札を実施。地元群馬県内の(株)グンエイが2億8,000万円を落札している。工期は2023年6月下旬から2024年1月までの7カ月。設備の導入により、CO₂削減と村面積の約87%を占める森林の資源の有効利用につなげたい考え【上毛新聞：

2023/08/21、川場村：2023/05/18、2023/06/12、広報かわば：2022/7月】

<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/331711>

https://www.vill.kawaba.gunma.jp/kurashi/sanno/nyusatsu/post_2.html

<https://www.vill.kawaba.gunma.jp/kurashi/sanno/nyusatsu/info/item/256a0ba9ad6a1560e35746a03349ac09.pdf>

https://www.vill.kawaba.gunma.jp/kurashi/sonsei/kouhou/kouhou_kawaba/item/d01561a0c3a13fc9977aa7a726a7bc03.pdf

■徳島県那賀町のチップ工場が本格稼働開始。農水省の令和3年度農山漁村振興交付金事業として2021年8月に指名競争入札を行い、(株)四電技術コンサルタント徳島支店(徳島)がチップ工場・倉庫新築工事設計委託業務を1,890万円で落札。住宅用建材に向かない町産材などをバイオマス発電の燃料用のチップに加工して販売し、森林所有者ら林業関係者の所得向上につなげるため、チップ工場を町有地に整備した。工場は4月から試験運転を開始しており、作業員が機械操作に慣れる試運転の期間を経て、安定的な生産にめどが立った【徳島新聞：2023/08/22、那賀町：2021/08/27】

<https://www.topics.or.jp/articles/-/945477>

https://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gyosei/reiwa03_04_03_2nyuusatsukekka/nyusatsu_kkka/20210827_nyusatsu_kkka/KekkaDtl007085000386.html

■北海道ガス(株)(北海道)と連結子会社である(株)北海道熱供給公社(同)及び(株)エナジーソリューション(同)の三社が、北海道札幌市東区北6条東2丁目・東3丁目が進む地区計画において施設を構える各事業者との間で電力・熱供給に関し合意したと発表。同地区計画において、北海道札幌市にある北ガスグループ本社ビルの地下に位置する「北ガス札幌発電所(7,800kW×2台)」から北海道ガスが独自に地中に新設する送電線(自営線)で電力を供給。さらに北海道熱供給公社が地中に熱供給管を敷設し、同社の「中央エネルギーセンター」か

ら高温水を供給する計画。中央エネルギーセンターは1971年10月に道内初の「地域熱供給」を開始した熱供給プラント。開業当初石炭を主燃料としていたが、時代の変遷の中で天然ガスへの転換や木質バイオマス燃料(27,000t/年使用)導入を開始。さらに北ガス札幌発電所の発電排熱も活用し、高温水を製造。札幌都心部の熱供給ネットワークを通じて約80件の顧客に高温水を供給している。電力、高温水共、2024年9月から順次、契約している顧客のホテルや病院等へ供給を開始する予定【北海道ガス(株):2023/08/23、(株)北海道熱供給公社】

<https://www.hokkaido-gas.co.jp/news/20230823>

<https://hokunetsu.co.jp/about/office/chuo/>

■経産省・資源エネルギー庁、8月23日に「第23回総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会新エネルギー小委員会バイオマス持続可能性ワーキンググループ」を開催。議題の一つであるバイオマス燃料のライフサイクルGHG(温室効果ガス)の情報を事業者が開示、報告する方法について案を提示した。それによると開示の内容は、設備名称、ID、発電出力や効率、燃料区分や燃料名、使用量、ライフサイクルGHG算定値等の他、持続可能性の認証情報、ライフサイクルGHGの排出削減に向けた自主的取り組みの内容等。情報開示・報告は当年度(4月～翌年3月)の実績を翌年度に実施。発電事業者の個社のウェブサイト等において情報開示した上で、業界団体に報告。業界団体が取りまとめた内容や各事業者から報告された情報一覧等について、WG等において毎年フォローアップを実施する、としている。同庁は、9月20日開催の第24回WGでもこれらの方針の決定に向けて議論したもよう【電気新聞:2023/08/24、資源エネルギー庁:2023/08/23、2023/09/20】

<https://www.denkishimbun.com/archives/309183>

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/shin_energy/biomass_sus_wg/023.html

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/shin_energy/biomass_sus_wg/024.html

■栃木県宇都宮市と芳賀町を結び、再生可能エネルギーを使用するLRT=次世代型路面電車「ライトライン」が8月26日に開業。宇都宮市と芳賀町、運行会社の宇都宮ライトレール(株)、2021年に宇都宮市が出資して設立された地域新電力の「宇都宮ライトパワー(株)」の4者は、LRTの運行に必要な電力を

全て再生可能エネルギーでまかなうための持続的な供給体制を構築するため、「脱炭素化推進に係る連携協定」を7月25日に締結。これにより、宇都宮ライトパワーが宇都宮ライトレールに対し、市内のごみ処理施設で行うバイオマス発電で得られた電力や、市民の太陽光発電による電力などを買い取って100%再生可能エネルギー由来の電力を供給。災害など非常時にも安定的にLRTに電力を供給するしくみを整えるほか、車両基地への太陽光発電設備や蓄電池の導入についても連携して取り組む。地域由来の再生可能エネルギーのみで走行するLRT(ゼロカーボントランスポート)は、「世界に類を見ない」取り組み。宇都宮市では路線バスを運行している関東自動車(株)(栃木)も、2030年までに市内で約160台の電気バスを導入し、再生可能エネルギーを活用すると発表している【NHK NEWS WEB:2023/08/25、日本経済新聞:2023/07/25、宇都宮市:2023/07/26、2023/09/22】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/utsunomiya/20230825/1090015745.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0CC256190V20C23A700000/>

<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/kankyo/1030209/1032748.html>

<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/kotsu/lrt/1028857/1032422.html>

■長野県、塩尻市、民間が連携して森林資源の活用を目指す「信州F・パワープロジェクト」のバイオマス発電所、燃料チップ不足で8月1日以降発電所の稼働を停止。発電所を操業するソヤノウッドパワー(株)(長野)が明らかに。燃料チップの納入を一手に担っている征矢野建材(株)(長野)が8月9日に民事再生法の適用を申請したのに伴い、燃料チップの供給は停止に。征矢野建材は燃料チップの納入量が不足した時に補償する契約をソヤノウッドパワーと結んでいたことで経営悪化の一因となったが、契約は8月21日の民事再生手続き開始決定後に解除された。ソヤノウッドパワーは8月25日、征矢野建材から燃料チップの供給が暫定的に再開したとし、発電所を8月27日に再開させる方針を示した。当初から9月は定期整備のため約1カ月間稼働を停止する予定だったとした上で、10月以降の燃料調達について「安定稼働できるよう、関係者間で協議していく」と説明【信濃毎日新聞:2023/08/26】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023082501135>

■宮城県石巻市須江に液体バイオマス発電施設「G-Bio 石巻須江発電所」の建設を計画している（株）G-Bio イニシアティブ（東京）、8月26日に燃料輸送車の試験走行を実施。走行ルートとして想定する石巻工業港と須江地区の建設予定地付近を、全長14m、積載20tの大型トレーラー2台が積載部分は空の状態で2往復した。同社は燃料輸送のため、大型トレーラー11台を1日3回走行させる計画。同社関係者が安全性をチェックしたほか、車両に燃料輸送業関係者が同乗し、第三者の視点で検証。検証結果はホームページで公表する予定。同社は使用燃料を巡り2月に経産省から改善命令を受け、7月に修正版の環境影響評価書を公表。計画では2024年1月頃着工、2027年4月頃運転開始を見込む【河北新報：2023/08/29、G-Bio 石巻須江発電所】

<https://kahoku.news/articles/20230829khn000026.html>

<https://g-bio-ishinomaki.com/>

■農水省、「令和4年木質バイオマスエネルギー利用動向調査結果」の第一報を公表。調査対象となった1,542の事業所のうち1,427事業所が回答し、有効回答率は87.0%。調査結果の概要によると、令和4年にエネルギーとして利用した木質バイオマスのうち、木材チップの量は1,105万8,554絶乾tとなり、前年比3.3%増加。このうち、「間伐材・林地残材等」に由来する木材チップは451万8,511絶乾tで前年比9.8%増加、「製材等残材」に由来する木材チップは173万1,619絶乾tで前年比3.3%減少、「建設資材廃棄物」に由来する木材チップは394万1,095絶乾tで前年比1.7%減少となった。統計表の方では都道府県別の利用量がまとめられている。今回は木材チップのみの調査結果の公表であり、木質ペレット、薪、木粉（おが粉）等の利用量は12月にホームページで公表する予定【農水省：2023/08/30】

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokusitu_biomass/

■林野庁、「令和6年度林野庁予算概算要求の概要」を公表。詳細は下記サイトを参照【林野庁：2023/09/01】

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/R6gaisan.html>

■パス（株）（東京）連結子会社の（株）アルヌール（東京）、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院工学研究科神田英輝助教と、同社で製造した藻類バイオマスよりフコキサンチン抽出後に得られる脂質からのバイオ燃料精製に成功。ア

ルヌールは、2020年11月設立以来自社のR&Dセンターにおいて自社開発によるLEDを使用したオリジナルの屋内型微細藻類培養装置により、微細藻類の安定した「屋内連続培養」と有用成分の「フコキサンチン」の抽出を行ってきた。同社のスキームでは藻類バイオマスの製造はロケーションを一切選ばず且つ低面積で済む。脂質以外の活用で収益を得る上、産業廃棄物の脂質でバイオ燃料を製造するため、採算の取れるバイオ燃料生産が実現可能に。同社ではこのスキームを藻類によるバイオ燃料生産を唯一成功させるスキームと捉え、今後更なる開発を進める【PR TIMES：2023/09/04】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000032.000072966.html>

■（株）レノバ（東京）連結子会社のユナイテッドリニューアブルエナジー（株）（秋田、以下「URE」）が保有・運営する秋田バイオマス発電所が、2023年9月1日よりFIP制度を活用し、小売電気事業者への長期価格固定契約に基づく売電を開始。UREは2016年7月営業運転開始。秋田県産未利用材（約7割）、PKS（約3割）を燃料とし、発電端出力20.5MW、送電端電力17.4MW、FIT制度に基づき新電力および東北電力（株）（宮城）に売電してきた。発電事業の収益性を向上させる観点から経産省にFIPへの移行認定の申請を行い、経済産業大臣から認定を受けたのが2023年8月。これに伴い、小売電気事業者への長期価格固定契約に基づく売電に切り替えた。契約期間は同発電所が有するFIT認証の残存期間となる【（株）レノバ：2023/09/01、ユナイテッドリニューアブルエナジー（株）】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20230901_01_PRESS.pdf

<https://www.united-re.jp/company/outline>

■香川県、試験研究用に下水汚泥を無償で提供へ。下水処理場で発生する汚泥は、脱炭素につながるバイオマスエネルギーとして利用可能であり、また農業生産に不可欠な肥料としての利用に対する必要性も高まっている。そこで香川県は、下水汚泥に関する技術開発の取り組みを支援するため、中讃流域下水道の各浄化センターで発生する下水汚泥を試験研究用に利用する研究機関や民間事業者などに無償で提供することを発表。9月10日より運用開始【香川県：2023/09/05】

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/gesuido/topics/topics/20230905.html>

■(株)日本総合研究所(東京、以下「日本総研」)、Daigas エナジー(株)(大阪)等が、「チャレンジ・カーボンニュートラル・コンソーシアム(CCNC)」を設立。二社の他、アサヒグループジャパン(株)(東京)、アスエネ(株)(東京)、サラヤ(株)(大阪)、三幸製菓(株)(新潟)、(株)スギ薬局(愛知)、日本ハム(株)(大阪)、(株)万代(大阪)、(株)ユーグレナ(東京)が参画。CCNCでは、生活者が脱炭素の取り組みに触れて認知を広げ、学びを通して楽しみ、興味をもって自分ゴト化する機会を用意。生活者とともに脱炭素社会の実現に挑戦する。今後、(1)実証参加企業同士の情報交換・勉強会、(2)みんなで減CO2(ゲンコツ)プロジェクト、(3)脱炭素に関する情報発信・啓発活動、の3つの活動を展開する。日本総研が活動全体の主催者としてコンソーシアムの活動全体を企画・推進し、Daigas エナジーが脱炭素に係るソリューション提供や勉強会を主導。その他の企業は商品や売場の提供、カーボンフットプリントの算定などを行う。複数の大学関係者もコンソーシアムのサポーターとして参画し、施策やコンテンツの開発に係る協力・助言を行う予定【日本経済新聞：2023/09/05、CCNC】

https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP661641_V00C23A900000/

<https://www.greenmarketing-lab.com/ccnc/>

■スズキ(株)(静岡)、インドでのバイオガス生産プラントの設置について、スズキ100%出資のSuzuki R&D Center India Private Limitedを通じてNational Dairy Development Board(全国酪農開発機構)およびアジア最大規模の乳業メーカーであるBanas Dairy社の3者間で合意したと発表。スズキは2022年12月にこの3者で、牛糞が発酵することで発生するバイオガスから自動車用燃料となるメタンを精製する実証事業開始に向けた覚書を締結し、検討を進めてきた。今後グジャラート州バナスカンタ地域において、2025年より順次4つのバイオガス生産プラントを設置(合計投資額は約40億円)。各プラントにはバイオガス充填スタンドを併設し、インドでマルチ・スズキが7割以上のシェアを有するCNG仕様車の燃料として販売する計画【スズキ(株)：2023/09/06】

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2023/0906/>

■経産省資源エネルギー庁、火力・バイオマス発電事業者に対し、需給バランス制約による出力制御時の出力引下げについて協力を依頼。電力供給が需要を上回ると見込まれる場合に供給

安定性を確保するために行われる再エネの出力制御について、同庁は2021年末に包括的な対策パッケージを取りまとめ、出力制御の低減に取り組んできている。5月29日に開催した第46回系統ワーキンググループでは、2018年10月に全国で初めて九州エリアで出力制御が実施されて以来、再エネの導入拡大とともに全国8エリアで実施しており、未実施の東京や関西エリアでも実施は時間の問題であるとして現状を報告。更なる対策として、新設火力電源(混焼バイオマスを含む)の最低出力については現行の50%から30%に引き下げ、新設バイオマス電源の最低出力については現行の50%を維持しつつ引き下げに向けた発電事業者の自主的な努力を求めていくことに。また既設火力電源等についても自家消費を主な目的とした発電設備等を含め、基本的に新設の場合と同様の基準の遵守について協力を求めることとなった【資源エネルギー庁：2023/09/06、2023/05/29】

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/announce/20230906.pdf

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/shin_energ/keito_wg/pdf/046_01_00.pdf

■ENTRENCO(株)(東京)、欧州本社の合併を受け社名を変更。ドイツの木質バイオマスCHP(熱電併給装置)メーカーのENTRENCO GmbHとBioenergie Wegscheid GmbHの合併を受け、ENTRENCOの日本総代理店を務める同社が9月よりWegscheidEntrenco(株)に社名を変更【OSR NO.575：2023/09/06、Bioenergie wegscheid】

<https://www.bioenergie-wegscheid.de/>

■欧州連合(EU)の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス(C3S)」、今年6~8月の世界の平均気温は過去最高を記録した2019年を大幅に上回り、観測史上最も暑い夏になったと発表。C3Sの分析によると6~8月の世界の平均気温は16.77度で、平年を0.66度上回った。月別では今年7月の平均気温が16.95度で、観測史上最も最高を記録。8月は16.82度で、7月に次ぐ史上2番目の暑さ。海面水温も8月の平均水温は20.98度で平年を0.55度上回り、過去最高に。南極の海水の面積はこの時期としては記録的に小さく、平年を12%下回っているという。国連のグテーレス事務総長は声明を発表し、「記録上、最も暑い夏となり、気候崩壊が始まった」と危機感をあらわに。気候変動が深刻化するペースが速く、世界各地での異常気象へ

の対応が追い付かなくなると警告し「指導者たちは解決策に熱を込めるべきだ」と対策強化を求めた【CNN：2023/09/07、朝日新聞：2023/09/08、信濃毎日新聞：2023/09/06】

<https://www.cnn.co.jp/world/35208786.html>

<https://www.asahi.com/articles/ASR9810CPR97UHBI033.html>

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023090601060>

■製紙用チップ、バイオマス発電と競合し、国産が1割高。国際市場で中国の製紙会社が北米産のチップ原料の確保を進めたことで、国内製紙会社が国産の手当に動いた。国内ではバイオマス発電会社も高水準でチップを調達。包装用紙や家庭紙の原料になる国産針葉樹チップは足元で取引価格が前年同月比で1割高に【日本経済新聞：2023/09/07】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB216HB0R20C23A8000000/>

■トヨタ自動車の米国法人 Toyota Motor North America (TMNA) と燃料電池 (FC) 発電事業の米 FuelCell Energy が、カリフォルニア州ロングビーチ港にある TMNA の物流拠点にバイオマスから水素を生成し、水素で発電する FC 発電所を建設。物流拠点「Toyota Logistic Services (TLS)」に建設したものは、畜産場の家畜排泄物や余剰食品などの廃棄物系バイオマスから水素と電気、水が得られる FuelCell Energy の施設「Tri-Gen」。水素の生成量は約 1.2t/日で、発電とトヨタの燃料電池車 (FCV) 「MIRAI」などへ供給。発電量は 2.3MW/日と、TLS の物流オペレーションで必要とされる電力を賄う。発電過程で約 5300ℓ/日生成される水は、車両の洗車作業に使う。TLS オペレーションに関する発電由来の CO₂ 排出量を 9,000t/年以上削減でき、発電由来の窒素酸化物 (NO_x) 排出を 6t/年以上減らせる見込み。ディーゼル燃料の消費量は 159 万ℓ/年以上、水道水の消費量は約 190 万ℓ/年少なくなるという。さらに、TLS で使用しない余剰電力は現地の電力会社 Southern California Edison (SCE) へ販売。TMNA はこれら水素と電気、水の 20 年間購入契約を FuelCell Energy と締結【CNET Japan：2023/09/08】

<https://japan.cnet.com/article/35208858/>

■ENEOS (株) (東京) とサントリーホールディングス (株) (大阪)、バイオマス資源の有効活用を目指し、国内未活用の廃食油調達における協業を行うことを発表。ENEOS が (株) 野村事務所 (東京)、(株) 吉川油脂 (栃木) とともに構築を進める

国内廃食油の安定調達の仕組みに、サントリーグループで外食事業を担う (株) ダイナック (東京)、井筒まい泉 (株) (東京) が参画。将来的にはサントリーの酒類製品の取引先である約 8 万店の料飲店ネットワークにおける未活用廃食油の調達に向けて協業を進めていく。料飲店より調達した廃食油は ENEOS が 2026 年を目標に事業化を進める持続可能な航空燃料 (SAF) の製造プラント (和歌山製油所・40 万kl/年) で原料として使用する予定【PR TIMES：2023/09/12】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000943.000042435.html>

■高知県、脱炭素社会の実現に向けてこれまでの県の取り組みや今後の目標などを話し合う会議を開催 (9 月 12 日)。県は昨年、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現に向けて行動計画を定めており、2030 年には温室効果ガスの実質排出量を 505 万 2,000t にすることを目標にしている。目標達成に向けて幹部職員から「民間事業者の太陽光発電設備の導入支援」などが報告されたが濱田知事は説明の不十分さを強く指摘。「再生可能エネルギーの導入や林業の活性化など高知の強みを生かした行動計画に」と伝えた。県は会議の内容をもとに、外部の有識者の意見を仰ぐ考え【Yahoo! Japan ニュース：2023/09/13】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/164617baa0f1527af2c4471761bd3856b0f94da5>

■2022 年度の福島県内の再生可能エネルギー導入量がエネルギー需要の 52.1%となり、初の 5 割超え。太陽光とバイオマス発電の伸びが全体をけん引し、導入実績 (設備容量、大規模水力を除く) は前年度に比べ 466MW 増の 3,683MW と、東日本大震災以降 11 年連続で増加。導入実績のエネルギー種別では、太陽光が前年度から 320MW、バイオマスは 142MW とそれぞれ伸長。県の再エネ導入目標は 2030 年度に 70%、2040 年度に 100%を掲げており、順調に推移している【福島民友新聞：2023/09/14】

<https://www.minyu-net.com/news/news/FM20230914-805217.php>

■長野県、松食い虫など病虫害に遭った枯れ木を県内の木質バイオマス発電所の燃料材として活用するため、林業事業者に対し最大 9 割支援する方針。県や塩尻市、民間が連携して森林資

源の有効活用を目指す「信州 F・パワープロジェクト」の木質バイオマス発電所を含め、各地の発電所が燃料確保の難しさに直面していることを踏まえ、本年度一般会計補正予算案に 5,000 万円の費用を計上。バイオマス発電所の燃料材や薪、ペレット向けに林業会社や森林組合などが枯れ木を伐採、搬出、運搬する場合にかかった費用の最大 9 割を補助する【信濃毎日新聞：2023/09/16】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023091600123>

■(株)ユー・イー・エス(大阪)、10月16日から環境・産業分野向け「SDGs ペレット炭」を提供開始へ。ヤシ殻活性炭を製造する同社が木質バイオマス発電の燃えカス(バイオ炭)を有

効活用し、活性炭製造で培ってきた様々な加工技術や触媒技術により性能を高めた機能性炭「SDGs ペレット炭」の提供を開始する。価格は一般のヤシ殻活性炭と比べて 50%以下で提供が可能。製造は和歌山県上富田町の工場において日産能力 5~8t のパイロットプラントを設置しており、土壌・空気・水などの環境浄化分野に向けて、初年度 1,000t の出荷を目指す【共同通信 PR Wire：2023/09/20、(株)ユー・イー・エス】

<https://kyodonewsprwire.jp/release/202309209884>

<https://cocowork.com/products/sdgs-carbon/>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

2. ペレット関連情報

■EURO STOVE ([有] 河西) (神奈川)、イタリア・テルモロッシ社のペレットストーブの新モデル「URBAN (アーバン)」の販売を開始。URBAN アーバンはテルモロッシが初めて手掛けた小型のシールドタイプ (FF 式) のペレットストーブ。日本の高気密住宅であれば十分な暖房能力を体感できるとのこと。炎が見えるフロント部分は全面ガラスで熱歪みの小さい鋳造ドアフレームとなっており、デザインと安全性に配慮してドアハンドルが脱着式になっている。暖房出力は最小 3.70kW、最大 7.10kW。外形サイズは W439 mm×D467 mm×H903 mm、本体重量 80kg。オプション (別売) の Wi-Fi モジュールを装着する事で、専用アプリを使ってスマートフォンやタブレット等で遠隔からのストーブの操作も可能に【EUROSTOVE ([有] 河西)：2023/08/04】

<https://www.pellet-stove.jp/%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%96-%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%8A%E3%83%83%E3%83%97/%E3%83%86%E3%83%AB%E3%83%A2%E3%83%AD%E3%83%83%E3%82%B7thermorossi/urban-%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%B3/>

■ブラックペレットや木質ペレット等の輸出入事業を行っている(株)日本 TOYO (東京)、8月18日にベトナムのソンドン県バクザン署で県知事のホアン・ヴァン・チョン氏に表敬訪問。ソンドン県におけるバイオマス発電所向け木質ペレット製

造工場の建設について、双方での合意に向け協議した。ソンドン県知事は TOYO グループに対し県内の森林開拓を強化し、FSC 認証を取得した森林面積を拡大し、バイオマス燃料の製造工場を新設する場所の提供、ロジスティックや農業残渣などの原材料調達に至るまでの全面的な協力を表明。同県初の再生可能エネルギープロジェクトとなる可能性について、TOYO グループと協議を進めていくとしている【PR TIMES:2023/08/20】
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000126479.html>

■ペレット石釜で焼き上げる本格ピッツァを提供する「Pizza-cle (ピザクル) 白根店」(新潟)の姉妹店「ピザクル小出店」が、新潟県魚沼市小出島にオープン(7月1日)。木質ペレットを燃料とする窯を使って 500 度の高温で焼き上げることで、表面のカリッとした食感とモチモチとした弾力、豊かな香りを実現。シックな風合いの店内で、常時 12 種類のピッツァを提供。本格ナポリピッツァをリーズナブルな価格で気軽に楽しめると評判【日刊にいがた：2023/08/20、まいぷれ】
<https://tjniigata.jp/gourmet/202309pizza-clecafeceide/>
https://uonuma.mypl.net/article/newopen_uonuma/76624

■東ソー(株)(本社・東京)が新バイオマス発電所建設工事に向けた安全祈願祭(7月12日)。山口県周南市にある同社南陽事業所には主燃料を石炭とする 6 基の自家発電所があるが、その一つを廃止し、新たにバイオマスの主燃料とした発電所を新

設するとして 2022 年 7 月に発表。新発電所は 2 万 7,000 m²の敷地に整備され、2026 年 4 月に木質ペレット、建築廃材、古紙と廃プラスチックでつくる固形燃料の RPF といったバイオマス燃料と石炭の混焼で商業運転を開始する予定。発電出力は 7 万 4,000kW。事業費は約 400 億円。最初は石炭を 30%混燃するが、徐々に減らして 2030 年度までにバイオマス燃料のみとし、CO₂ 排出量の約 50 万 t/年削減をめざす【OSR No.574 : 2023/08/30、朝日新聞 : 2023/07/18、東ソー (株) : 2022/07/27】

<https://www.asahi.com/articles/ASR7K7476R7KTZNB005.html>

<https://www.tosoh.co.jp/news/release/2022/20220727.html>

■エンビバ (USA)、グレン・ヌンチアータ氏がエグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高財務責任者 (CFO) に就任したことを発表。財務、戦略、会計、資金、リスク管理に深い専門知識を持つ同氏は、20 年以上にわたる強力なリーダーシップの経験を生かし、大規模な組織において全社的な改革を実施し、主要な財務とプロセスの改善を推進した実績を持つ。2018 年から同社の最高財務責任者を務めていたシャイ・エヴェン氏の後任【JJI.COM : 2023/08/31】

<https://www.jiji.com/jc/article?k=20230830108850&g=bw>

■バイオマスや繊維、食品等の第三者認証を行う (株) Control Union Japan (本社・東京) が、神戸支所を開設。同社はロジスティクス、品質、認証、リスクマネジメント業界において、70 か国以上で約 100 年に渡り活動を続けているオランダの Peterson and Control Union Group の日本法人であり、国内初のバイオマス燃料を専業とした分析機関。兵庫県神戸市東灘区に開所される支所は、「バイオマス発電に使用される燃料の分析、検査及び第三者認証」を事業内容としている。同社の神戸市への進出にあたって、兵庫県および神戸市が、外国・外資系企業向け賃料補助による支援を行う予定【兵庫県 : 2023/09/01】

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230901_13840.html

■(株) レノバ (東京) 等が宮城県石巻市に整備を進めていた「石巻ひばり野バイオマス発電所」が、9 月中にも営業運転開始へ。事業はレノバと東京ガス (株) (東京)、ユナイテッド計画 (株) (秋田)、みずほリース (株) (東京) が出資した合同会社「石巻ひばり野バイオマスエナジー」が担う。燃料は、北米や東南アジアから輸入する木質ペレットと PKS を活用。計約

32 万 t/年を石巻港雲雀野中央埠頭や北埠頭から発電所へ運搬する。将来的には県産未利用材の木質チップの活用も見込む。発電出力は約 7 万 5,000kW で国内最大規模。年間発電量は一般家庭 17 万世帯分に相当する 5 億 3,000 万 kWh を想定し、全て東北電力ネットワーク (株) (宮城) に売電する。施設は 2020 年 10 月に着工。現在最終段階の試運転を行っており、9 月中に営業運転開始予定【河北新報 : 2023/09/07、khh5 : 2023/09/11】

<https://kahoku.news/articles/20230907khn000014.html>

<https://www.khb-tv.co.jp/news/15002606>

■鳥取県米子市にある米子バイオマス発電所内で、9 月 9 日 9 時 25 分頃火災発生。爆発があり煙があがっていると 119 番通報があった。ただちに消火活動を開始し、13 時 15 分頃鎮火を確認。貯留槽に搬送するため、港から運ばれてきた木質ペレットを受入れる鉄骨建屋 (135 m²) と、木質ペレットを貯留槽に運ぶポケットエレベータ (75 m²) が燃えたがけが人はなかった。火災の範囲は 2 台の燃料の受入搬送設備のうち 1 台であり、発電所構外への影響はないとのこと。鳥取県警米子署の発表では、何らかの原因で爆発が起き出火。衝撃で建屋の壁や屋根が吹き飛んだ。同発電所は中部電力 (株) (愛知)、三菱 HC キャピタル (株) (東京)、東急不動産 (株) (東京)、シンエネジー開発 (株) (群馬)、三光 (株) (鳥取) の 5 社が出資する米子バイオマス発電合同会社が運営。木質ペレット、PKS を燃料とし、発電出力は 54,500kW。想定年間発電電力量は約 3.9 億 kWh (一般家庭約 12.5 万世帯分に相当)。2022 年 4 月 2 日に運転を開始。今年 5 月にも 2 回貯留槽で火災が発生。9 月 12 日、米子市の伊木市長がバイオマス発電会社の足利司社長に対し「原因究明と対策が講じられるまでは稼働を停止すること。地域住民への説明を行い信頼回復に努めること」等 4 項目の安全を求める緊急申し入れを行った。発電所は少なくとも半年は運転停止となる見通し【米子バイオマス発電合同会社、山陰中央新報デジタル : 2023/09/09、読売新聞オンライン : 2023/09/11、Yahoo! Japan ニュース : 2023/09/12】

<https://www.yonago-biomass.co.jp/20230909-2/>

<https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/448279>

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20230910-OYT1T50087/>

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7ec049830d640cd27each3d4f940fa4fa801afe9>

■（公財）自然エネルギー財団（東京）、解説「バイオマス炭素サイクルの気候中立性：森林バイオマスの『炭素負債』論争を理解する」を公表。森林から直接取り出されて利用される森林バイオマスは、一部から「カーボンニュートラルではない」「石炭よりも悪い」という批判的なキャンペーンの対象となっており、科学的にも前提の置き方によって得られる結論が変わってしまう「やっかいな問題」の様相を呈している。そこでこの解説では、現在のバイオエネルギー利用に伴うCO₂算定の基礎となっている IPCC ガイドラインにおけるバイオマス由来炭素の計上方法などを解説しながら、論争の全体的な枠組みを整理。その上で議論の前提となるべき森林バイオマス利用の実態を解説。さらに近年の企業の炭素会計における議論の最新動向も紹介しつつ、今後の建設的な議論のポイントを示している。下記サイトより閲覧可【（公財）自然エネルギー財団：2023/09/13】
<https://www.renewable-ei.org/activities/reports/20230913.php>

■米子バイオマス発電所火災について、鳥取県が調査チームを立ち上げ。9月14日の記者会見で、平井知事が「住宅地に隣接した地域で危険を伴う事態が起きたのは看過しがたい」として米子市とともに消防や専門家からなる調査チームを立ち上げることを明らかに。9月中に現地調査を行い、火災の詳しい原因を調べる方針。同時にこの発電所の許可権者である経産省に対しても、調査や事業所の指導を緊急に要請すると発言。さらに今年に入って山口県下関市、千葉県袖ヶ浦市、京都府舞鶴市のペレットを燃料とするバイオマス発電所でも事故が起きたことから「全国的な問題」であるとし、国に対しても関心を持ち、足りないところがあるのであれば設置基準や運用についての指導ガイドラインを正していく必要があると述べた【NHK NEWS WEB、知事定例記者会見：2023/09/14】
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/tottori/20230914/4040016106.html>
<http://www.pref.tottori.lg.jp/312953.htm#7>

■（株）トヨトミ（愛知）、ペレットストーブ「vifu（ヴィフ）」（型式名 PE-8N）を10月2日より新発売。vifu はフランス語で“生活”という意味の“vie”【ヴィー】と、“火”という意味の“feu”【フィー】を組み合わせた愛称。コンセプトである「炎

のある暮らしを始めよう」という意味が込められている。Vifu はペレットストーブ最大の魅力でもある「炎」にフォーカス。炎の迫力を十分に感じられるよう、燃焼窓を最大限大きく仕上げ、大きく広がるように設計されている炎の迫力を十分に感じることができるようになっている。継ぎ目のない1枚の板金からできた扉も、炎の美しさをより引き立てるようになっている。燃焼制御装置や耐震自動消火装置、過熱や逆火の防止装置など、様々なリスクに対応する安全機能も備える。色調はブラック。暖房出力は最大 5.1kW、最小 2.8kW。寸法は H813 mm×W494 mm×D469 mm、重量は 72kg。販売価格は 440,000 円(税込)。オプション品（別売）で vifu 専用脚や vifu 専用化粧パネルも用意
【PR TIMES：2023/09/20、（株）トヨトミ】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000068647.html>

<https://www.toyotomi.jp/products/heating/pellet-stove/pellet/vifu%e3%80%90pe-8n%e3%80%91>

■9月9日に発生した米子バイオマス発電所火災で住民説明会。「米子バイオマス発電所」は、今年5月から7月にかけて煙や火が出て消防が3回出動したほか、9月9日には燃料の木質ペレットを搬入する施設で爆発を伴った火事が起き、現在運転は停止中。火災が相次いでいることから発電所は9月22日に周辺の住民を対象とした説明会を開催し、発電所の共同事業6社が改めて謝罪。説明会で、発電所側は火災の原因が全て違うことを明らかにしたが、原因の究明や防止策のスケジュールは、まだ立っていないなどと説明。住民からは安全管理を疑問視する意見や具体的な再発防止策が示されないことに憤る声が相次いだ。発電所にとっては早急な原因究明や再発防止対策はもちろん、地域住民からの信頼回復を得ることが大きな課題に
【NHK NEWS WEB、Yahoo! Japan ニュース：2023/09/22】
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/tottori/20230922/4040016156.html>
<https://news.yahoo.co.jp/articles/7fe5e74aa521c69c39deb29350663485584cedf1>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■松本市美鈴湖もりの国オートキャンプ場「もりの国まつり2023」

2023年10月1日（日）

美鈴湖もりの国オートキャンプ場（長野県松本市）

<https://misuzuko.net/topic/topic-1374>

■（一社）北海道再生可能エネルギー振興機構「再エネと地域共生 ～まちづくりと考える脱炭素への道～」

2023年10月3日（火）

オンライン開催（Zoom ウェビナー）

<https://www.reoh.org/news/20231003>

■森林づくり全国推進会議・林野庁「第2回森林づくり全国推進会議シンポジウム『企業による森林との関わり方と可能性』森林づくりを通じた脱炭素社会の実現へ」

2023年10月4日（水）

木材会館7階大ホール（東京都江東区）

<https://www.green.or.jp/news/%e3%80%9010-4%ef%bc%88%e6%b0%b4%ef%bc%89%e3%80%91%e7%ac%ac%ef%bc%92%e5%9b%9e%e6%a3%ae%e6%9e%97%e3%81%a5%e3%81%8f%e3%82%8a%e5%85%a8%e5%9b%bd%e6%8e%a8%e9%80%b2%e4%bc%9a%e8%ad%b0%e3%80%81%e3%82%b7/>

■福島県の再造林を考える会「福島県の再造林推進を考えるシンポジウム」

2023年10月4日（水）

ビッグパレットふくしまコンベンションホール（1F）（福島県）

<https://www.big-palette.jp/event.html?id=2317>

■（一社）日本木工機械工業会「日本木工機械展 Mokkiten Japan 2023」

2023年10月5日（木）～7日（土）

ポートメッセなごや（愛知県名古屋市中区）

<https://mokkiten.com/>

■気候変動イニシアティブ「気候変動アクション日本サミット2023」

2023年10月6日（金）

六本木アカデミーヒルズタワーホール（東京都港区）/Zoom ウェビナー

<https://japanclimate.org/news-topics/jcas2023/>

■国立研究開発法人森林研究・整備機構「2023年度 森林総合研究所公開講演会「持続可能な豊かな森を築く一資源を提供してくれる森を築くために今必要な事」」

2023年10月11日（水）

一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231011ffprilec/index.html>

■BioJapan 事務局「BioJapan2023」

2023年10月11日（水）～13日（金）

パシフィコ横浜（神奈川県）

<https://jcd-expo.jp/ja/>

■NEDO「2023年度 NEDO 再生可能エネルギー熱オンライン講座」（応用編・太陽熱）

2023年10月12日（木）

オンライン配信

https://www.nedo.go.jp/events/FF_100142.html

■NEDO「2023年度 NEDO 再生可能エネルギー熱オンライン講座」（応用編・地中熱）

2023年10月13日（金）

オンライン配信

https://www.nedo.go.jp/events/FF_100142.html

■REIF ふくしま 2023 運営事務局「第12回ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（REIF ふくしま 2023）」

2023年10月12日（木）～13日（金）

ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）

<https://reif-fukushima.jp/>

■NPO 法人九州バイオマスフォーラム 林業・薪割体験イベント「暖談の会 2023」
2023年10月14日(土)
熊本県野外劇場アスペクタ周辺(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)
<https://kbiomass.org/2023/09/08/2023%E5%B9%B410%E6%9C%88-%E6%9A%96%E8%AB%87%E3%81%AE%E4%BC%9A%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B/>

■(一財)日本緑化センター「グリーンエージ都市環境緑化フォーラム～人々と森との関わりのあるあり方を再考する」
2023年10月18日(水)
自動車会館(東京都千代田区)
http://www.jpgreen.or.jp/toshi_ryokka/index.html

■(一社)日本能率協会「北海道エネルギー技術革新 EXPO 2023」
2023年10月18日(水)～19日(木)
アクセスサッポロ(北海道札幌市)
https://www.jma.or.jp/infra/energy/outline/index_h.html

■NEDO「2023年度 NEDO 再生可能エネルギー熱オンライン講座」(応用編・木質バイオマス熱)
2023年10月19日(木)
オンライン配信
https://www.nedo.go.jp/events/FF_100142.html

■諏訪圏工業メッセ 2023
2023年10月19日(木)～21日(土)
岡谷市民総合体育館/テクノプラザおかや(長野県岡谷市)
<https://suwamesse.jp/>

■NPO 法人九州バイオマスフォーラム 林業・薪割体験イベント「暖談の会 2023」
2023年10月21日(土)
熊本県野外劇場アスペクタ周辺(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)
<https://kbiomass.org/2023/09/08/2023%E5%B9%B410%E6%9C%88-%E6%9A%96%E8%AB%87%E3%81%AE%E4%BC%9A%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B/>

■学校法人誠心学園浜松開誠館中学校・高等学校「気候変動から未来を守るシンポジウム 2023～いま、果たすべき教育の役割とは?～」
2023年10月21日(土)
浜松開誠館中学校・高等学校(静岡県浜松市)
<https://www.kaiseikan.ed.jp/cat-news/20231021/>

■(一社)吉野と暮らす会「よしの木フェス 2023」
2023年10月21日(土)
吉野材センター(奈良県吉野郡吉野町)
<https://yoshinoboku.com/woodfestival/>

◎(株)サンコー「PELLET STOVE FESTIVAL ～とやまペレットストーブまつり～」
2023年10月22日(日)
(株)サンコー屋外駐車場(屋根付き)、常設展示場(富山県富山市)
[2023 ペレットストーブ展示会.pdf](https://sancoh.toyama.jp/psv.html)
<https://sancoh.toyama.jp/psv.html>

■環境省、他「IPCC シンポジウム『IPCC 第7次評価報告書へ向けて～未来のために今私たちが行動しよう～』」
2023年10月23日(月)
東京国際フォーラム B7 ホール(東京都千代田区)
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01289.html

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク(BIN) 第217回研究会「バイオガス利用の最新動向(仮題)」
2023年10月24日(火)
地球環境パートナーシッププラザ(東京都渋谷区)/オンライン
<https://www.npobin.net/activity/seminar.html>

■兵庫県立農林水産技術総合センター「森林林業フォーラム 2023『SDGs×森林林業技術センター』」
2023年10月26日(木)
姫路市文化コンベンションセンター アクリエひめじ(兵庫県姫路市)
https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230825_13760.html

■NEDO「2023年度 NEDO 再生可能エネルギー熱オンライン講座」(応用編・地熱・蓄熱・排熱)

2023年10月27日(金)

オンライン配信

https://www.nedo.go.jp/events/FF_100142.html

■NPO 法人九州バイオマソフォーラム 林業・薪割体験イベント「暖談の会 2023」

2023年10月28日(土)

熊本県野外劇場アスペクタ周辺(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

<https://kbiomass.org/2023/09/08/2023%E5%B9%B410%E6%9C%88-%E6%9A%96%E8%AB%87%E3%81%AE%E4%BC%9A%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B/>

■(株)新社会システム総合研究所「気候変動対応が主流化するなか 企業は脱炭素シナリオをどう描くか」

2023年10月31日(火)

SSK セミナールーム(東京都港区)

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=23453>

■(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所シンポジウム「森林が主導するネイチャーポジティブ～生物多様性の研究と実践の最前線～(第1回森林のOECMによる30 by 30への貢献を考える)」

2023年10月31日(火)

Webexによるオンライン開催

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031symposium/index.html>

■(一社)産業環境管理協会「森林が有する機能のポテンシャルとニーズ等に関するシンポジウム」

2023年10月31日(火)

AP新橋5階Kルーム(東京都港区)/オンライン(Zoom)

<http://www.sankankai.com/sym231031.shtml>

■兵庫県セミナー「脱炭素社会における新たな森林価値～森林分野のJ-クレジットの活用～」

2023年11月2日(木)

ラッセホール5F(サンフラワー)(兵庫県神戸市)

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230915_13951.html

■(株)新社会システム総合研究所「地産地消型マイクログリッドで脱炭素を実現するための処方箋」

2023年11月6日(月)

SSK セミナールーム(東京都港区)/ライブ・アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=23507>

■(一社)林業機械化協会「2023第46回全国育樹祭開催記念行事森林・林業・環境機械展示実演会」

2023年11月12日(日)～13日(月)

笠松運動公園(茨城県ひたちなか市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/>

■エバーグリーン・マーケティング(株)「【岩手県内企業向け】生き残る企業になるための電力値上げ対策と脱炭素セミナー」

2023年11月15日(水)

オンライン

<https://www.ginga.or.jp/2023/09/13/12529/>

■RX Japan(株)関西スマートエネルギーWeek 秋「脱炭素経営EXPO」

2023年11月15日(水)～17日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.decarbonization-expo.jp/osaka/ja-jp.html>

■(一社)日本能率協会「Japan Home & Building Show 2023」

2023年11月15日(水)～17日(金)

東京ビッグサイト東展示棟(東京都江東区)

<https://www.jma.or.jp/homeshow/tokyo/>

■(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「WOOD BIO 交流プラットフォーム第2回現地見学会」

2023年11月20日(月)～21日(火)

福井県あわら市

<https://jwba.or.jp/topics/events/topics20230905/>

■(公財)オイスカ関西支部「『災害のデパート』フィリピン北部での37年間の挑戦とこれから【地球環境を考えるトークイベント2023秋】」

2023年11月23日(祝・木)

国民会館「武藤記念ホール」(大阪府大阪市)/オンライン

<https://oisca.org/events/e231123/>

■NPO 法人循環型社会推進協会(RDA)セミナー「『環境の世紀』を究める!!北極、南極からの熱きメッセージと地球の未来」

2023年11月25日(土)

オンライン開催 (Zoom ウェビナー形式)

<https://www.rdatokyo.net/>

■(一社)全国林業改良普及協会「福島森と木の親子体験

オンライン教室 2023」

2023年11月25日(土)

YouTubeにて参加者限定生配信

https://www.ringyou.or.jp/hukyu/detail_1838.html

■アフリカ日本協議会「コンゴの熱帯林より最新報告～野生生物保全(特にヨウム)・気候変動・先住民族」

2023年11月28日(火)

地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)(東京都渋谷区)/オンライン (Zoom)

<https://ajf.gr.jp/20231128event/>

■(一社)日本エネルギー学会バイオマス部会「第11回アジアバイオマス科学会議」

2023年12月6日(水)

にぎわい交流館AU(あう)(秋田)

<https://www.jie.or.jp/publics/index/943/>

■(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所シンポジウム「森林が主導するネイチャーポジティブ～生物多様性の研究と実践の最前線～(第2回生物多様性の保全・回復と森林のビジネス)」

2023年12月6日(水)

Webexによるオンライン開催

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031symposium/index.html>

■(一社)サステナブル経営推進機構、「エコプロ 2023」

2023年12月6日(水)～8日(金)

東京ビッグサイト東ホール(東京都江東区)

<https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

■(一社)日本エネルギー学会バイオマス部会「第19回バイオマス科学会議」

2023年12月7日(木)～12月9日(土)

にぎわい交流館AU(秋田)、12/9はテクニカルツアー

<https://www.jie.or.jp/publics/index/932/>

■脱炭素チャレンジカップ事務局「脱炭素チャレンジカップ 2024」

2024年2月6日(火)

伊藤謝恩ホール(東京都文京区)

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■RX Japan(株)「第9回【国際】バイオマス展【春】」

2024年2月28日(水)～3月1日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■RX Japan(株)スマートエネルギーWeek 春

2024年3月1日(水)～3日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎2024NEW 環境展/2024 地球温暖化防止展

2024年5月22日(水)～24日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報(海外)

◎Bioenergy Heating International Training Seminar

2023年10月2日(月)～5日(木)

リンツ(オーストリア)

<https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating>

■Bioenergy Pavilion 2023

2023年10月4日(水)～6日(金)

グレーター・ノイダ(インド)

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2023/>

■IGEM 2023 - International Greentech & Eco Products Exhibition & Conference

2023年10月4日(水)～6日(金)

クアラルンプール(マレーシア) / オンライン

<https://www.igem.my/>

■PALMEX Indonesia 2023

2023年10月4日(水)～6日(金)

メダン(インドネシア)

<https://palmoilexpo.com/>

■ICRABR 2023

2023年10月9日(月)～12日(木)

カプールタラー(インド)

<https://www.worldbioenergy.org/news/722/47/ICRABR-2023/>

■UK Green Gas Day2023

2023年10月11日(水)

ソリフル(UK)

<https://www.r-e-a.net/events/uk-green-gas-day/>

■Biomass PowerON 2023

2023年10月11日(水)～12日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2023,4.en,2,1,25.html>

■Argus Biofuels Europe Conference

2023年10月11日(水)～13日(金)

ロンドン(UK) / オンライン

https://www.argusmedia.com/en/conferences-events-listing/biofuels?utm_source=conf-partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-erc-2023-10-bio-biofuels&utm_content=euaf-erc-2023-10-bio-biofuels-

[bioenergy-europe](#)

■USIPA 2023 Conference

2023年10月16日(月)～18日(水)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://theusipa.org/2023-conference>

■IAEA Task40 Workshop30: Bioenergy in a Net Zero Future

2023年10月19日(木)

リヨン(フランス)

<https://www.ieabioenergy.com/blog/ieaevent/ws30-bioenergy-in-a-net-zero-future/>

◎5th European Conference Future of Biofuels

2023年10月24日(火)～25日(水)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/5th-european-conference-future-of-biofuels/>

■European Biomethane Week 2023

2023年10月24日(火)～25日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiogas.eu/european-biomethane-week-2023/#:~:text=4th%20week%20of%20October%20across,October%3A%20Flagship%20event%20in%20Brussels>

■Deforestation Regulation - Whats next?

2023年10月25日(水)

ブリュッセル(ベルギー) / オンライン

<https://www.svebio.se/en/evenemang/deforestation-regulation-whats-next/>

■All Energy Australia 2023

2023年10月25日(水)～26日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■Ecomondo 2023

2023年11月7日(火)～10日(金)

リミニ(イタリア)

https://unb.ecomondo.com/visit-2023/?utm_source=referral&utm_medium=banner&utm_campaign=Woodcote+Media+Publications

©7th Biomass & Bioenergy Asia

2023年11月28日(火)～30日(木)

ホーチミンシティ(ベトナム)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=231127&>

■International Bioenergy and Bioproducts Conference (IBBC)

2023年11月5日(日)～8日(水)

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://tappi-ibbc.org/>

■National Carbon Capture Conference & Expo

2023年11月7日(火)～8日(水)

アイオワ州デモイン(USA)

<https://nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■Smart City Expo World Congress

2023年11月7日(火)～9日(木)

バルセロナ(スペイン)

<https://www.smartcityexpo.com/>

■ECOMONDO 2023

2023年11月7日(火)～10日(金)

リミニ(イタリア)

https://unb.ecomondo.com/visit-2023/?utm_source=referral&utm_medium=banner&utm_campaign=Woodcote+Media+Publications

■EIF 2023 – World Energy Congress and Expo

2023年11月15日(水)～17日(金)

イスタンブール(トルコ)

<https://www.worldenergy-congress.com/>

■The Future of Biogas Europe Summit 2023

2023年11月22日(水)～23日(木)

アムステルダム(オランダ)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

■The European Bioenergy Future 2023 (EBF2023)

2023年11月28日(火)～30日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/385-the-european-bioenergy-future-2023-ebf2023.html>

■2023 UN Climate Change Conference (UNFCCC COP 28)

2023年11月30日(木)～12月12日(火)

ドバイ(アラブ首長国連邦)

<https://sdg.iisd.org/events/2022-un-climate-change-conference-unfccc-cop-28/>

■Progress in Manure & Digestate

2023年12月5日(火)～7日(木)

オンライン

<https://ibbk-biogas.com/schedule/online-conference-progress-manure-digestate-treatment/>

■21st International Conference on Renewable Mobility “Fuels of the Future 2024”

2024年1月22日(月)～23日(火)

ベルリン(ドイツ)

<https://www.fuels-of-the-future.com/en>

■bio 360 Expo 2024

2024年1月24日(水)～25日(木)

ナンテ(フランス)

<https://bio360expo.com/>

■ENEX 2024 – International Power Industry and Renewable Sources of Energy Fair

2024年2月7日(水)～8日(木)

キエルツェ(ポーランド)

<https://www.targikielce.pl/en/enex>

■Progetto Fuoco

2024年2月28日(水)～3月2日(土)

ヴェローナ(イタリア)

<https://www.progettofuoco.com/en/>

■2024 International Biomass Conference & Expo

2024年3月4日(月)～6日(水)

ヴァージニア州リッチモンド(USA)

<https://2024->

[bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home](https://www.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home)

■WFES 2024 – World Future Energy Summit

2024年4月16日(火)～18日(木)

アブダビ(アラブ首長国連邦)

<https://www.worldfutureenergysummit.com/>

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo

2024年5月1日(水)～3日(金)

コロラド州デンバー(USA)

<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo

2024年5月6日(月)～9日(木)

ネバダ州ラスベガス(USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

[http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Carbon Capture Storage Summit](http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Carbon%20Capture%20Storage%20Summit)

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■International Biogas Congress & Expo

2024年6月18日(火)～19日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergy-news.com/conference/about-biogas/>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日(水)～12日(木)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home>

5. 2023年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報(都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

【群馬】

◇中之条町「中之条町薪ストーブ等購入費補助制度」

<https://www.town.nakanojo.gunma.jp/soshiki/7/1482.html>

※対象は薪ストーブ、ペレットストーブ

【埼玉】

◇ときがわ町「薪ストーブ設置事業費補助金」

<https://www.town.tokigawa.lg.jp/info/1507>

※対象は薪ストーブ

【長野】

◇辰野町「ペレットストーブ購入の補助金」

https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/soshiki/sangyoshinkoka/shigoto_sangyo/4/951.html

◆茅野市「令和5年度ペレットストーブ・ペレットボイラーの購入に係る補助金」

<https://www.city.chino.lg.jp/soshiki/nourin/perettohojokin.html>

※2023年10月20日(金)まで募集受付を延長

6. 公募等情報（締切順）

■（公財）滋賀県産業支援プラザ「令和5年度省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

最終締切：10月31日（火）

<https://www.shigaplaza.or.jp/hojokin-co2-230630/>

■農水省「令和5年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」

募集期間 2023年6月15日（木）～10月31日（火）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/230615.html

■兵庫県「『ひょうごバイオマス eco モデル』応募受付中!!」

応募締切 ～2023年10月31日（火）

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230801_13623.html

■（公財）SOMPO 環境財団「環境保全プロジェクト助成」

締切 ～2023年10月31日（火）

<https://www.sompo-ef.org/project/project.html>

■（一社）環境共創イニシアチブ「令和4年度補正予算省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業公募情報（4次公募）」

公募期間 2023年9月8日（金）～11月2日（木）

<https://sii.or.jp/senshin04r/overview4.html>

■NEDO「2023年度第2回『新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業』（新エネ中小・スタートアップ支援制度）に係る公募について」

受付期間 2023年9月6日（火）～11月9日（木）

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100422.html

■資源エネルギー庁「令和5年度地域共生型再生可能エネルギー事業頭彰の公募について」

公募期間：2023年9月20日（水）～11月10日（金）

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/advanced_systems/saiene_kensho/about.html

■脱炭素チャレンジカップ事務局「『脱炭素チャレンジカップ2024』エントリー募集中」（アイデア賞）

応募締切 2023年11月30日（木）

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■新潟県「令和5年度新潟県再生可能エネルギー設備導入促進事業補助金（二次公募）」

公募期間 2023年6月28日（水）～12月15日（金）

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/sogyosuishin/1356915935143.html>

■奈良県「令和5年度地域エネルギー資源活用支援事業補助金」

募集期間 2023年6月30日（金）～12月22日（金）

<https://www.pref.nara.jp/55628.htm>

■広島県「令和5年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 2023年12月28日（木）まで

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■（公社）日本フィランソロピー協会「SDGs貢献プロジェクト」

受付 2023年12月1日（金）～31日（日）

<https://www.philanthropy.or.jp/jt/>

■静岡県浜松市「浜松市木質バイオマス設備導入支援事業費補助金」

受付期間 2023年4月21日（金）～2024年1月31日（水）

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shin-ene/new_ene/mokushitsuhojokin.html

■栃木県「今すぐ始められる脱炭素の取組を紹介します！（脱炭素普及啓発事業）」

募集期間 2023年4月12日（水）～2024年2月中旬まで

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/hukyukeihatsu.html>

■長野県塩尻市「塩尻市木質バイオマス利用設備設置費等補助金（ペレットストーブ、ペレットボイラー用燃料）」

申請書受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/30/2997.html>

■兵庫県宍粟市「宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業補助金（木質バイオマス燃料製造設備導入費用助成）」

受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）
<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/tanntoujyouhou/shinenerugi/1515747696234.html>

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置（固定資産税の特例等）」

固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日（日）まで
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■林野庁「『森ハブ・プラットフォーム』参画企業・団体等を募集」

https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/ken_sidou/230904.html

■岐阜県美濃加茂市「美濃加茂市里山千年構想推進業務補助金」

https://www.city.minokamo.gifu.jp/shimin/contents.cfm?base_id=11257&mi_id=1&g1_id=9&g2_id=0

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料普及拡大推進事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=24564>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料高騰対策事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=25479>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syoutene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■神奈川県横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

※融資制度

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉县市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■（独）農林漁業信用基金「災害で被災された方の支援について（新型コロナウイルス感染症による影響を含む）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/shien/index.html>

■（独）農林漁業信用基金「新たに林業・木材産業の事業を立ち上げる方（新たに開始する方、他産業から参入する方）への支援について（林業・木材産業の創業等支援保証）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/default2022042214551.html>

■（独）農林漁業信用基金「林業・木材産業の複合経営を行う方への支援について（林業・木材産業複合経営化支援保証）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/default2022042214150.html>